

高校生の調査学習における援助ニーズと学習支援について

著者	高柳 真人
著者別名	Takayanagi Masato
雑誌名	研究紀要
号	38
ページ	21-24
発行年	2000-12-26
URL	http://hdl.handle.net/2241/9082

高校生の調査学習における援助ニーズと学習支援について

農業科 高柳真人

1. はじめに

2003年度から施行される学習指導要領（文部省告示、1999）に、「学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開する中で、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めなければならない」と示されているように、従来ややもすると教え込むことに偏りがちであった教育の在り方に対する反省から、学習者自身が自ら学び、考えるような学習を進めることが重要であるという認識がなされるようになってきた。その場合、児童・生徒の学習形態として、調査学習（いわゆる「調べ学習」）を行う機会が多くなることが考えられる。生きる力を育成する上で、そうした学習形態を学習指導に取り入れることが要請されているということができよう。

平成6年度より総合学科を開設している筑波大学附属坂戸高校では、平成8年度から、3年次開設の総合学科原則履修科目「課題研究」の学習が始まった。「多様な教科・科目の選択履修によって深められた知的好奇心に基づいて自ら課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を育てるとともに、自己の将来の進路選択を含め人間としての在り方生き方について考察させる」この科目の内容として「調査、実験、研究、作品製作、産業現場等における学習」が想定されている（高等学校教育の改革の推進に関する会議、1993a）。生徒は、自らの興味・関心や将来の進路選択を考慮して選択した科目学習などを通じて醸成された問題意識を踏まえた課題を設定する。この課題に従って、調査、実験、研究、作品製作などの課題解決学習が行われるが、これらの内容に共通した学習活動として、調査学習があることを押さえておく必要がある。すなわち、実験を行う場合でも、作品を製作するにせよ、先行研究や通説を調査したり、研究方法について調査するなどの手続きが必要になる。「調査」以外の学習内容を選択した場合でも、調査学習が必要になるのであり、調査学習は、「課題研究」のような主体的課題解決型学習に欠かせない学習活動であるといえよう。

本研究では、高校生がこうした調査学習を効果的に行う上で、どのような援助ニーズを有するのかを明らかにし、それを踏まえて、どのような支援を行うとよいのかを検討することを目的とする。具体的には、「課題研究」を学ぶ生徒の意識調査を行い、その結果を分析することを通して、この課題を検討する。

2. 生徒の意識調査

調査学習活動が展開される科目「課題研究」の履修者157名（現3年生）を対象に、平成12年12月11日、「『課題研究』における情報収集に関する調査」と題した調査を行った。HR担任を通じ、HRを利用して調査が実施された。本研究では、そのうち、調査学習における高校生の学習支援ニーズに関する項目を取り上げ、分析を加えるものである。具体的な調査項目は以下の通りである。

〔調査依頼文〕

「課題研究」において、皆さんは、何らかの調査活動を行っていると思います。この調査では、そうした調査活動における皆さんの情報収集に対し、どのような援助をしていけばよいのかを考えるために必要な知見を得るために行います。回答内容の分析に当たっては個人名が特定できないように配慮致します。皆さんの取り組んでいる「課題研究」の実際を理解し、今後の指導法の改善等に役立てたいと思いますのでご協力をお願い致します。
*回答は原則的には当てはまる項目を丸で囲んで下さい。
*（ ）には、自由に記述して下さい。

〔調査項目〕

1. あなたの属性
性別（男・女） 担当教官（Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類・Ⅳ類・普通教科）
2. 調べ学習をどう思いますか〔面白い・やる気が出る・主体的に取り組める・難しい・その他（ ）〕

今日の高等学校教育全般に言えることであるが、特に総合学科においては、「生徒の個性を生かした主体的な選択や実践的・体験的な学習を重視」（高等学校教育の改革の推進に関する会議、1993b）することが求められている。生徒が主体的、体験的な調査学習を行うことをどのように受け取っているのかを調査しようとした。特

に、学習意欲や動機付けとの関連で「面白い」、「やる気が出る」という項目を、主体的な学習態度との関連で「主体的に取り組める」という項目を、学習支援ニーズの有無との関連で「難しい」という項目を選択肢として考えた。その他の生徒の感想を収集するため、「その他」もつけ加えた。この調査の結果から、調査学習の意義や、生徒支援の必要性が明らかになると考えられる。

4. 調べ学習を進める上で、どのような援助があるとよいと思いますか (○)。また、今回の「課題研究」で得られた援助があれば、◎で囲んで下さい。

〔情報検索の仕方についての指導・図書など印刷資料の充実・インターネットなどの充実・情報源（どこに何があるかやどこに行けばよいか）の紹介や有効な利用法の指導・その他（ ）〕

この質問では、生徒が得た、或いは得たいと考えている援助について明らかにしようとした。堀川（2000）は、「調べ学習は、情報の利用の一連の流れを含んでいる。情報を選択・収集して整理し、分析・検討し、自分の考えを明確にして新しい情報を創造し、それを伝達・発信し、最後に自分の情報行動を評価するという過程である」と述べているが、調査学習活動の始まりは、自分の設定した課題を探求するのに必要な情報を選択・収集することに始まる。情報を収集する（アクセスする）ための方法の習得に関連して「情報検索の仕方についての指導」、「情報源（どこに何があるかやどこに行けばよいか）の紹介や有効な利用法の指導」という項目を、情報源となる情報メディアの充実に関連して「図書など印刷資料の充実」、「インターネットなどの充実」という項目を取り上げた。また、その他の、生徒が得た、或いは、得たいと考えている支援について知るために、「その他」という項目も設けた。

全部で127名の回答があった（回収率80.9%）。回答者の属性は、担当教官分野別内訳がⅠ類の者25名（男12、女13）、Ⅱ類の者24名（男23、女1）、Ⅲ類の者23名（男1、女22）、Ⅳ類25名（男9、女16）、普通教科28名（男7、女21名）、男女別では、男52名、女73名であった。

3. 「課題研究」における調査学習の実態

(1) 調査学習に対する感想

「課題研究」で調査学習を経験している生徒は調査学習をどう思っているのだろうか。質問項目「調べ学習をどう思いますか」の回答を図1に示す。「面白い」と回答した者が28.3%、「やる気が出る」と回答した者が5.5%存在した。意欲的取り組みや動機付けに関わると考

えられる項目を延べ33.8%、約3分の1の者が選択しているといえる。また、「主体的に取り組める」と回答した者が22.0%存在した。延べ55.8%の者が、調査学習に主体的、或いは、意欲的に取り組んでいることが示された。その一方、「難しい」と回答した生徒も41.7%存在する。調査学習に対して、自ら主体的に取り組める、面白い学習であるという反応がある反面、難しい科目であるという反応も相当数ある。従って、生徒の主体性を損なうとか、もう高校3年生だからなどの理由で学習支援を行わないことは不適切であるといえよう。難しいと感じる生徒に対して学習支援を行うことで、生徒の意欲的、主体的な調査学習が円滑に行われることが期待できる。

「その他」の回答は、19.7%あった。「面倒だけど、好きなものは苦にならない」、「自分のペースで進められる」といったポジティブな回答も少数あった（全体の2.4%）が、「面倒」、「好きじゃない」といった回答や、「資料が少なくて行き詰まった」、「研究のやり方がわからない」などのネガティブな回答も少なくなく（全体の15.7%）、これらの回答からも、調査学習に関する学習支援の必要性が示されていると考えられる。

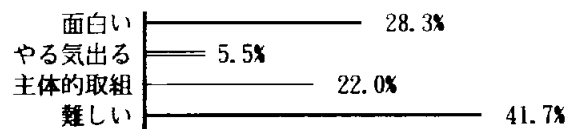


図1 調べ学習をどう思うか

(2) 調査学習における学習支援の実態と援助ニーズ

生徒は「課題研究」で調査学習を進めるに当たり、どのような援助を受け、また必要としているのかを調査した。「調べ学習を進める上で、どのような援助があるとよいと思いますか (○)。また、今回の『課題研究』で得られた援助があれば、◎で囲んで下さい」という質問の回答を図2に示す。いずれの項目でも、「援助があるとよい」の選択率が高かった。援助があるとよいと回答した割合は、情報検索の仕方が11.8%、図書など印刷資料の充実が30.7%、インターネットなどの充実が42.5%、情報源の紹介や利用法が18.1%であった。その他の回答は4.7%と少なかった。情報検索の仕方と情報源の紹介や利用法といった、情報へのアクセスに関する援助を求める者が、延べで29.9%と相当数存在することがわかった。実際に、情報のアクセスの仕方に関する指導を得ている者は、情報検索の仕方についてが7.9%、情報源の紹介や利用法についてが6.3%、延べ14.2%であった。調査学習を行うに当たり、どこに情報があるのか、どうアクセス

したらよいのかということをご指導してほしい生徒が3割程度いる一方、実際に、その指導を受けている生徒は1割強であり、この領域に関する指導が行われることが必要であろう。生徒の研究テーマは多岐に渡っており、担当教員がすべての情報を知っているとは限らないし、知ることは難しいであろうが、学校や公共図書館のレファレンスサービスの存在を教えたり、自分なりの情報収集の仕方、読み方のノウハウを教えることはできるだろうし、インターネット環境の整備、各種情報誌の収集や博物館等情報提供施設に関する情報収集、アクセスの仕方の教示などは、この領域の指導の第一歩となるであろう。

また、印刷資料の充実やインターネットなどの充実に求める者が、延べ73.5%と多数存在している。こうした情報メディアが十分であったと回答した者は、印刷資料が3.1%、インターネット等が11.0%、延べ14.1%と援助があるとよいという回答に比べ、少ないといえよう。多様な課題に対応する情報メディアを収集したり、インターネット環境を整備するためには、予算的な措置も必要ではあるが、学校の学習環境の一層の向上を目指し、学校図書館を学校における学習センター、情報センターとして再構築したり、外部諸機関との連携を深めたり、情報環境の整備が早急に求められるところである。

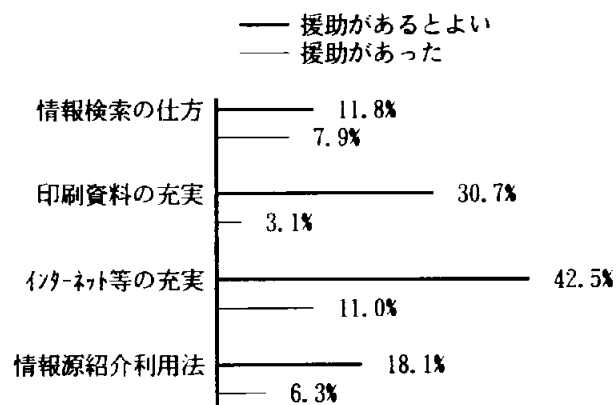


図2 『課題研究』で受けた援助とほしい援助

(3) 課題の種類と必要とする援助

生徒の調査学習における援助ニーズとその支援策の概要については、今述べた通りであるが、よりきめ細かい支援策を行うための基礎的知見を得るため、課題の内容と必要な援助との関係について分析する。

表1に平成12年度『課題研究』受講者の研究内容を示す。この表は、平成12年12月に筑波大学附属坂戸高等学校を会場として行われた第1回関東高等学校総合学科教育研究大会で配布された『『課題研究』発表者要旨集』に示された生徒のテーマ一覧をもとに作成された。生徒の属性のうち、担当教官の担当教科（Ⅰ類：農業、Ⅱ

類：工業、Ⅲ類：家庭、Ⅳ類：商業、普：普通）毎に、課題の内容（「調査」、「研究」、「実験」、「作品研究」）をまとめたものである。「環境の現状を知る」、「服屋(フランド)を調べる」、「川口市の老人福祉の実態について」など、実態調査が研究の中心になるとされる課題を「調査」に分類した。「ゴマの有効な利用法」、「ロータリーエンジンについて」、「イタリア料理」、「鉄道の夜間長距離輸送の将来性」、「くまのプーさんについて」など、様々な研究手法を含んだり、提言を含むと思われる研究を「研究」に分類した（作家研究や文学作品研究、地域研究などのイメージ）。「肥料と作物の関係」、「ハーブのアレロパシー作用について」、「カートをエンジンで動かす」など、実験が研究の中心になるとされる課題を「実験」に分類した。また、「廃材を使っての庭作り」、「ホームページを作る」、「関数のグラフ表示ソフトの作成」、「サラダ油でおいしいお菓子を作る」、「洋服の作品製作」など、ハード、ソフトを含め作品を製作することが中心となる研究を「作品製作」に分類した。

表1 『課題研究』の研究内容

	調査	研究	実験	作品製作
Ⅰ	5	10	9	4
Ⅱ	1	15	2	11
Ⅲ	6	19	1	3
Ⅳ	1	30	0	1
普	4	27	1	5

筑波大学附属坂戸高校では、生徒の設定した課題のテーマに対応できる教科の教員が担当することを原則としており、表1に示されたように、担当教員の教科毎に、研究内容にある程度特徴がみられる。すなわち、農業や環境に関するテーマを選んだ生徒は、「実験」的な研究を行う者が多かったり、工業系のテーマを選んだ生徒は、プログラミングをはじめとする「作品製作」が多く、調理・栄養、被服、保育・福祉に関するテーマを選んだ生徒は、実験や調査も含みつつ、現象の解明や提言（すぐれたレシピや栄養摂取の在り方、機能的な幼児服の在り方等）を行う「研究」が多く、商業系や人文科学、自然科学に関するテーマを選んだ生徒も、調査なども行う場合があるが、様々な提言や論考を行う「研究」（「お米について」、「戦後の日本経済」、「自分とは何か」、「イルカを通してみた海洋汚染」、「英語と日本語」など）が多い。このように、担当教員の教科に関する生徒の属性は、選択したテーマの領域と関連が深いのが、同時に、「調査」、「実験」などの研究内容（方法、手法）

とも、ある程度関係がありそうである。生徒の研究内容と学習支援ニーズに関係があるかどうかを調査するため、生徒の属性毎の援助ニーズを調査した。その結果を図3に示す。

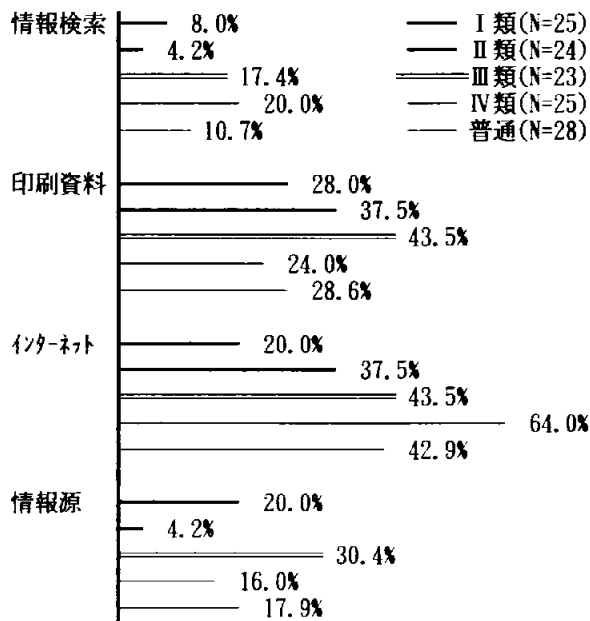


図3 生徒の属性と援助ニーズ

1) 情報へのアクセスの仕方についての援助ニーズ

情報へのアクセスの仕方についてのニーズの多寡を調べるため、担当教員の分野毎に、質問項目「情報検索の仕方についての指導」と「情報源の紹介や有効な利用法の指導」の選択率を合計したところ、I類が28.2%、II類が8.4%、III類が47.8%、IV類が36.0%、普通教科が28.6%であった。相対的に「作品製作」の多いII類の生徒は、この点に関する援助ニーズが他の分野に比べ少なくなっている。その原因として、作品製作という内容は、それまでの系列学習の延長上にあると考えられ、新たな情報収集をする機会が比較的少なくても済むのではないかということが考えられる。また、工業系のテーマを選択する生徒は、日頃の授業で、インターネットをはじめとする情報メディアを利用する機会も多く、情報へのアクセスの仕方について習熟している者も少なくないことももう一つの要因として考えることができる。

2) 情報メディアの充実についてのニーズ

情報メディアの充実についてのニーズの多寡を調べるため「図書など印刷資料の充実」及び「インターネットなどの充実」の2つの項目の選択率を合計したところ、I類が48.0%、II類が75.0%、III類が87.0%、IV類が88.0%、普通教科が71.7%であった。全体的に、情報メディアの充実に対するニーズは高いが、相対的に「実

験」の多いI類の生徒は、他の分野に比べ、この点に関するニーズが少ない。高柳(2000)の調査では、I類の教員が担当する生徒の36.0%は、担当教師を情報源としており、実験を行うに当たり、それまでの系列の学習や教科書等の活用、教師とのやり取りが多いことが、比較的、この点のニーズの低さと関係しているのかも知れない。相対的に「研究」の多いIII類、IV類、普通教科では、この点に関するニーズが高い他、「作品製作」の割合も高いII類の生徒も、情報メディアの充実に関するニーズが高い。

4. おわりに

『課題研究』を担当して4年になるが、この授業では、生徒が自分の興味・関心や進路選択を視野に入れたテーマを設定し、主体的に学習に取り組んでいる姿を見ることができ、3年間の学習の総まとめの科目という言い方にふさわしい科目になってきたと感じることがよくある。とはいえ、この科目に取り組むに当たり、すべての生徒が最初から順調に取り組める訳ではなく、テーマ設定で悩み、テーマが決まってからも情報収集で悩み、まとめで悩みと様々な試練が待ち受けている場合が少なくない。

多くの生徒は、調査学習を面白く感じながら、主体的に学習に取り組んでいるが、同時に、多くの生徒が感じている難しさの中に、情報へのアクセスの仕方がわからなかったり、情報源となる情報メディアが身近にないことが関係していると考えられる。生徒の主体的学習を可能にする学校の情報環境の整備がますます期待されるころだが、それと同時に、教師にできることとして、日頃、我々の行っている情報収集に関するノウハウを提供することも一つの現実的方策として考えられよう。

引用文献

- 堀川照代 2000 多様なメディアの利用 渡辺満彦・山本順一・堀川照代『情報メディアの活用』 p.44
放送大学教育振興会
高等学校教育の改革の推進に関する会議 1993 高等学校教育の改革の推進について(第四次報告)の概要—総合学科について(報告)— 文部省『「産業社会と人間」指導資料』 a:p.117 b:p.124 ぎょうせい
文部省告示 1999 高等学校学習指導要領(平成11年3月) p.1 大蔵省印刷局
高柳真人 2000 高校生の調査学習における情報収集とインターネットの活用について 筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要第38集 P.26 筑波大学附属坂戸高校